

せんりゅうおおやまみやげ

### #39 川柳大山みやげ

作者：安藤幻怪坊（あんどう・げんかいぼう 1880-1928）

刊行：昭和32年（1957）



#### 📖 解題

##### ■ 内容

『川柳大山みやげ』は江戸時代の古川柳、『川柳評万句合』、『柳多留』、『柳多留拾遺』等より大山に関する川柳を抄出し略解を施したものである。

昭和32年（1957）刊行の再刊増補版は岡田甫が補訂を施している。前著で不明のままの出典を補い、初心者のために補注や、本文を新仮名遣いに改めるなど読みやすく改訂を施した。

当館以外に国立国会図書館、国文学研究資料館、奈良大学図書館、立教大学図書館、大阪市立図書館、県内では平塚市図書館、伊勢原市立図書館で所蔵が確認できる。

##### ■ 作者

作者の安藤幻怪坊は、横浜の弘誓院の住職（僧名・玄戒）で、古川柳の研究家。本名を安藤久太郎といい、明治13年（1880）7月、香川県多度津町に下駄商の次男として生まれた。10歳の時に、横浜に出奔し、職を転々とした後、僧侶となった。明治36年（1903）、久良伎の門に入り、若竹会を結成。若竹会で創作した作品を「芦蟹」として「貿易新報」に載せたことから、横浜川柳社がスタートし、明治41年（1908）に川柳誌『新川柳』を創刊した。著書に、『謡曲と川柳』、『川柳歳事記』などがある。

補訂の岡田甫（おかた・はじめ、1905-1979）は、川柳・雑俳研究家。本



[K93.61/4A]

名を千葉治といい、明治38年(1905)、東京・日本橋に生まれた。早稲田大学で国文学、漢文学を専攻し、教師、出版社編集部長を経た後、昭和9年(1934)から文筆活動に専念した。古川柳、江戸風俗研究を目的とする近世庶民文化研究所を設立し、『近世庶民文化』を創刊した。『川柳末摘花注解』、『誹風柳多留全集全12巻』、『川柳東海道』など著書や校訂した資料は多い。



## 参考文献

<初版>

『川柳大山みやげ』安藤幻怪坊編 坂本書店 1927 [K93.61/4]

<参考文献>

『古川柳』山路閑古著 岩波書店 1965 (岩波新書) [911.45/17]

『柳多留輪講 初篇』大村沙華編 至文堂 1972 [911.45/19/1]

『雨譚註川柳評万句合』水木真弓編著 有光書房 1974 [911.45/121]

『誹風柳多留拾遺輪講』吉田精一ほか編 岩波書店 1977 [911.45/33]

『誹風柳多留全集 索引篇』岡田甫校訂 三省堂 1984 [911.45/23]

『江戸古川柳の世界』下山弘著 講談社 1994 (講談社現代新書)

[911.45/107]

『誹風柳多留拾遺 上・下』山沢英雄校訂 岩波書店 1995 (岩波文庫) [I911/ヤA/1-2]

『誹風柳多留 全句索引』柄井川柳選 山沢英雄校訂 岩波書店 1995 (岩波文庫) [I911/ヤA/4]

『川柳総合大事典 第1巻 人物編』尾藤一泉・堺利彦編 雄山閣 2007

[911.4/29A/1]

『名句鑑賞「誹風柳多留」十一篇を読み解く』佐藤美文著 新葉館出版 2015

[911.45/130]